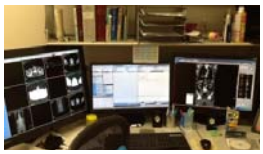
画像診断科



【1】研修プログラムの目的と特徴

画像診断科では、ＣＴ・ＭＲＩ・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を１名の診断専門医（常勤）が担当している。

【2】一般目標：GIO(General Instructional Objective)

全身の臓器について基本的な放射線正常解剖を履修し、検査適応、検査実施法、検査結果の読影について短期間の研修を行う。

【3】行動目標：SBOs（Specific Behavioral Objectives）

1. 各疾患について、CT、MRI、核医学、血管撮影の適応を判断できる。
2. 検査のオーダーの際、検査目的を適切に記載することができる。
3. 検査方法や注意事項について患者へ説明し、同意を得ることができる。
4. 造影剤使用の適応を判断して投与できる。
5. 副作用発生時に対処できる。
6. 画像の電子的ファイルシステムを理解し、読影システムや 3D ワークステーションを操作できる。
7. 画像の放射線正常解剖を習得する。
8. 異常所見の表現方法を習得する。
9. 画像診断についての基本的な知識を習得する。

【4】方略(Learning Strategies)

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	検査室研修	1～5	研修医	検査室	検査機器	指導医	終日	平日
2	読影室研修	6～9	研修医	読影室	画像			

【5】教育評価(Educational Evaluation)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～5	形成的	態度・知識	指導医 放射線技師 看護師	研修終了時	観察記録
6～9	形成的	知識	指導医	研修中	観察記録

【6】画像診断科週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	外来/血管造影/読影	外来/血管造影/読影	外来/血管造影/読影	外来/血管造影/読影	読影
午後	外来/読影	外来/読影	外来/読影	外来/読影	読影

夕方	救急症例検討会		消化器外科カンファレンス		

【7】研修内容と方法

基本的な画像診断はほとんどの診療科で必要になる能力であるが、そのベースとなるのは全診療科の疾患やその治療法に関しての知識である。

1週目は、何種類もあるヨード造影剤やMRI造影剤の使い分けの理論やその副作用の頻度・対処法などを学び、続いて読影システムの使用法や実際の読影の流れをマンツーマンで習得する。

2週目以降は研修医単独で画像診断を行い、指導医がそれをチェックすることを繰り返してなるべく多くの画像を目にできるように配慮する。

血管造影に関しては能力に応じて助手または術者として手技を実施する。

【8】指導責任者および上級医

指導責任者:照山　和秀

指導医名	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修指導医
照山　和秀 （てるやまかずひで）	画像診断科長兼放射線科長	1994 年	日本医学放射線学会放射線科専門医 医学博士	○

〈専門分野〉

・カテーテルを用いた血管内治療。（悪性腫瘍に対する抗癌剤動注療法や塞栓術、動脈瘤・動静脈奇形・喀血・不正出血などに対する動脈塞栓術、閉塞性動脈硬化症や透析シャント狭窄に対する血管拡張術など）

・画像ガイド下での生検やドレナージ

・ＣＴ・ＭＲＩ・核医学などの画像診断

【9】2016年読影実績

総読影件数 5465 件

ＣＴ　4020　　MRI　1031　　シンチ　327　　アンギオ　73　　一般撮影　14

【10】改訂履歴

- 2014.4　改訂　照山和秀
- 2016.1　改訂　照山和秀